

# 令和5年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

## 第8回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2023年10月21日（土）9:00～14:30

参加者：7名（学生：5名 教職員：杉山、中澤）

### ■実施場所：高円山

### ■第8回 高円山の自然

概要：早春日山の南側に位置する高円山を歩き、春日山との違いを体験するとともに森の利用について考えます。

9:00 大学正門前集合

9:10 挨拶・フィールドワークスタート

9:30 高畑町 東山緑地・高畑自然教室フィールド（マテバシイ・アベマキの観察）

10:20 高円山登山口

11:30 火床到着

12:20 山頂到着・昼食

13:00 下山開始

14:30 若草山下山（北口）・解散

### ■概要報告

春日山の南に位置する高円山のフィールドワーク。高円山は春日山と大きく異なり、薪炭林としての活用の形跡が見える。木の実が多く観察できる季節であったため、高円山までの道中でも、マテバシイや、アベマキなどのどんぐりの観察を行った。

高円山に入ると、倒木が非常に目立った。ナラ枯れ被害で枯れていた木や、シカの剥皮の被害にあった木などが見受けられ、土壌が流れている箇所も多くあった。また、クヌギ、コナラ、カシなどが、根本でいくつかの幹に分かれており、薪炭林としての活用がかつてなされてきたことを確認した。

一方で、近年森を放置してきたことによる、ナラ枯れの発生についても確認することができた。

2014～18年頃にかけて、ナラ枯れ被害が拡大した際に対策したビニール被覆の跡が一部エリアで見られたが、剥がれたシートが飛散しており、マイクロプラスチック問題とも繋がる点について考える機会となった。1時間弱で火床に到着すると、若草山とは異なる風景が印象に残っているようであった。その後山頂に至るまでは、人工林やホテルの跡地など人がどのように自然を利用してきたかを様々な面から見る事ができた。帰りは行きと異なるルートで下山し、行きと同様に途中、木の実やきのこなどを観察しながら下山した。高円山には、春日山原始林とは異なり、人が自然を使って暮らしを維持してきた痕跡と、人が自然を活用しなくなった時間の経過を見ることができた。持続可能な社会を実現する上での自然環境をどのように維持していくかを考える良い時間となった。

■写真



火床での集合写真



倒木が非常に目立っていた



ソヨゴなど赤い実が目立った



下山時に見つけたキノコ